

令和2年度 相模原市 下水道の決算

下水道事業の決算をわかりやすく解説します



〇はじめに

相模原市の下水道事業は、使用者のみなさまが納めている下水道使用料で、安定したサービスを継続的に提供するため、一般会計から独立した「公営企業」として運営しています。

公営企業の経理では、「企業会計方式」を採用することが義務付けられており、現金の収支に基づく一般会計と異なり、債権債務の発生に基づき経理を行っています。

決算では、1年間の経営成績を表す「損益計算書」や、年度末の財政状態を表す「貸借対照表」など、企業会計方式特有の書類があります。

本書では、みなさまに下水道のお金に関することについてご理解いただくために、下水道事業の決算を分かりやすく解説しています。

目次

- 1 決算ってなに？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
 - ・令和2年度決算について
 - 2 どんない収入があったの？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
 - 3 どんないことに使ったの？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
 - 4 経営状況は？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
 - ・損益計算書
 - ・貸借対照表
 - ・経営指標
 - 5 その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
 - ・「剰余金」ってなに？
 - ・なぜ借金するの？
 - ・資金の補填の仕組みは？
 - ・「長期前受金戻入」「減価償却費」ってなに？
 - ・令和2年度に実施した主な事業
-
-

1 決算ってなに？

市が下水道施設の維持管理や建設を計画的に行うためには、どんなことにお金を使うのかあらかじめ決める必要があります。そこで、下水道使用料など（収入）の見積もりとお金の使いみち（支出）の計画を1年間のはじめに「予算」としてまとめています。この「予算」に対する結果をみなさまに報告するのが「決算」になります。

〇令和2年度決算について

令和2年度の決算については、下水道施設の維持管理に関するお金（収益的収支）として、下水道使用料や他会計負担金など約162億円(①)の収益があり、維持管理費など約148億円(②)の費用がかかりました。市内ポンプ場点検調査の実施時期見直しなどにより約3,900万円(③)を繰り越しました。

また、下水道施設の建設や借入金に関するお金（資本的収支）として、企業債の借入金や国及び県の補助金など約72億円(④)の収入があり、建設改良費や企業債の返済など約139億円(⑤)の支出がありました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により年度内に工事が完了しなかったものや継続事業を合わせて約39億円(⑥)を繰り越しました。

収入と支出の差額については、下水道事業の留保資金で補填する仕組みとなっています（詳しくは8ページを参照）。

予算の執行状況

（単位：百万円）

区 分	予算額	決算額	繰越額	執行率	R1年度
収益的収入	16,160	① 16,214	－	100.3%	99.8%
収益的支出	15,873	② 14,858	③ 39	93.6%	93.3%
資本的収入	13,433	④ 7,242	－	53.9%	62.6%
資本的支出	20,356	⑤ 13,924	⑥ 3,907	68.4%	74.2%

※消費税及び地方消費税相当額を含む。

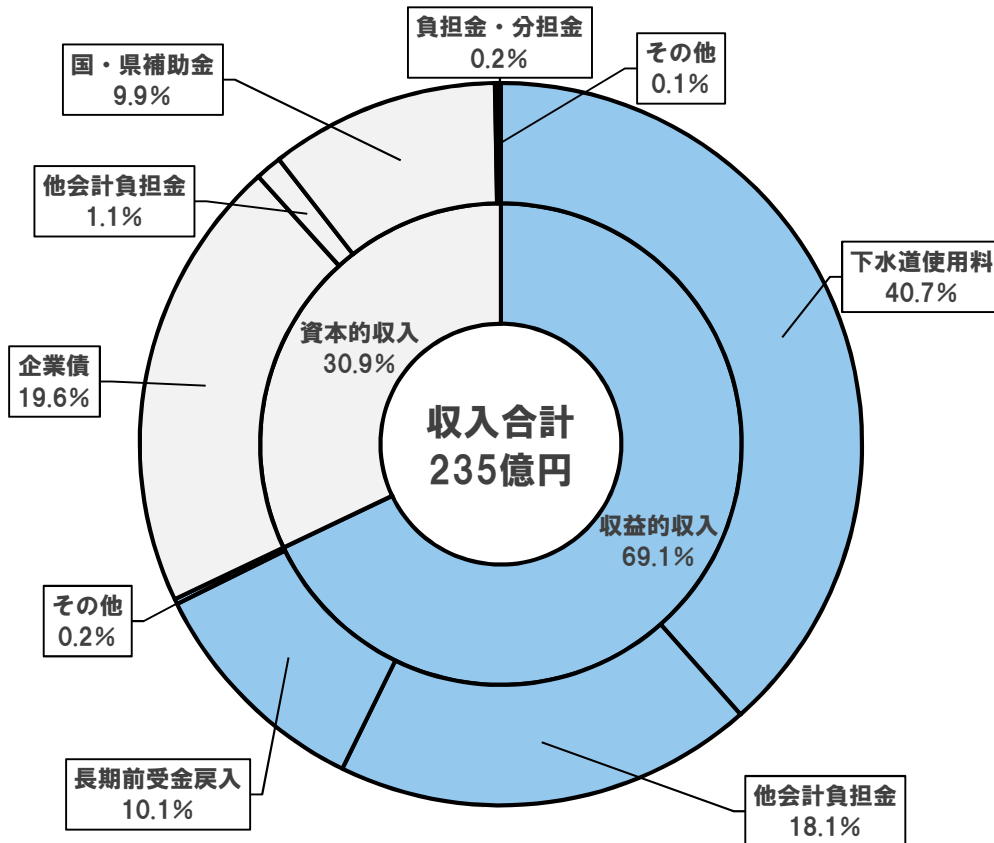


2

どんな収入があったの？

下水道事業の収入は、「下水道使用料」が最も大きな割合を占め、このほか、国や県から交付される補助金や借入金（企業債）などがありました。

収入には、下水道施設の維持管理に使う「収益的収入」と下水道施設の建設や借入金の返済に使う「資本的収入」があります。



(単位：百万円 税込)

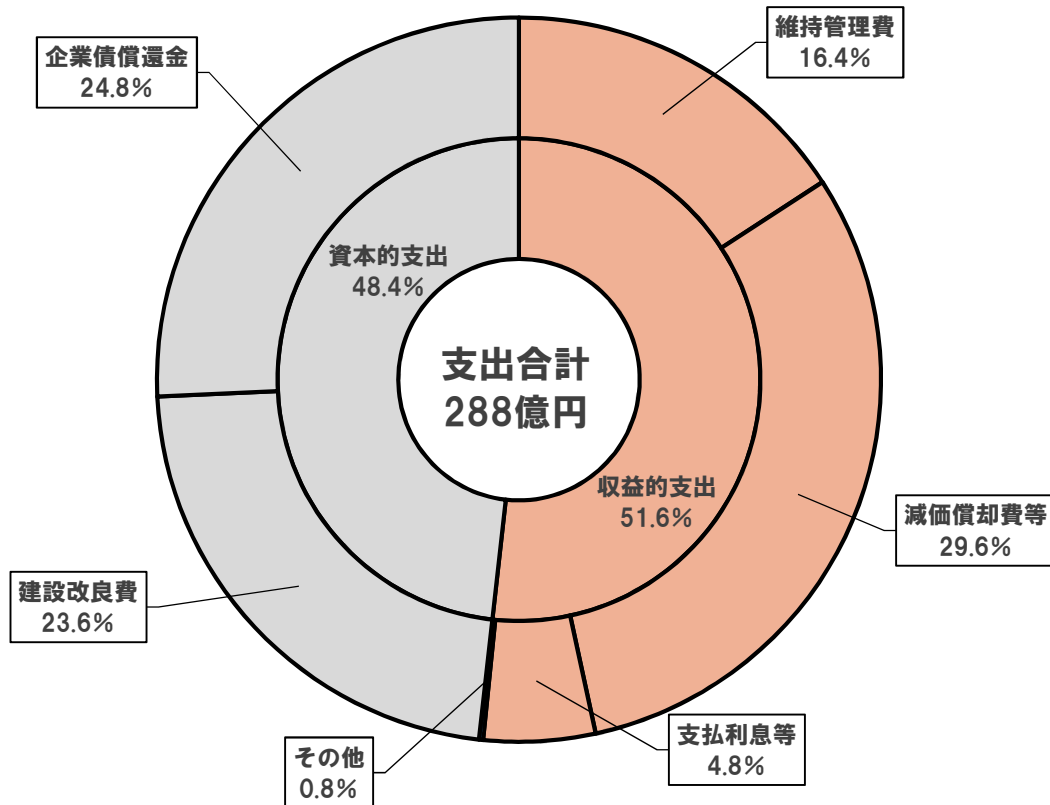
	内容	金額	割合
収益的収入	下水道使用料	9,554	40.7%
	他会計負担金	4,241	18.1%
	長期前受金戻入	2,366	10.1%
	その他収益的収入	53	0.2%
	計	16,214	69.1%
資本的収入	企業債による借入	4,595	19.6%
	他会計負担金	268	1.1%
	国・県補助金	2,321	9.9%
	負担金・分担金	41	0.2%
	その他資本的収入	17	0.1%
	計	7,242	30.9%
合計		23,456	100.0%

3

どんなことに使ったの？

維持管理費や建設改良費のほかに、建設時に借り入れた企業債の返済やその利息の支払いに使いました。また、企業会計の特徴である「減価償却費」も大きな割合を占めました。

支出には、下水道施設の維持管理に掛かる「収益的支出」と下水道施設の建設や借入金の返済に掛かる「資本的支出」があります。



(単位：百万円 税込)

	内容	金額	割合
収益的支出	維持管理費	4,730	16.4%
	減価償却費等	8,526	29.6%
	支払利息等	1,377	4.8%
	その他収益的支出	225	0.8%
	計	14,858	51.6%
資本的支出	建設改良費等	6,793	23.6%
	企業債償還金	7,131	24.8%
	計	13,924	48.4%
合計		28,782	100.0%

4

経営状況は？

○損益計算書

損益計算書は、1年間における経営成績を「収益」と「費用」で表すものです。収益から費用を差し引いたものを「当期純利益（マイナスのときは当期純損失）」といいます。

(単位：百万円 税抜)

	内 容	令和2年度	令和元年度	増減額	増減率
収 益	下水道使用料	8,686	8,697	△11	△0.1%
	他会計負担金	4,241	4,357	△116	△2.7%
	長期前受金戻入	2,366	2,323	43	1.8%
	その他	52	35	17	33.0%
	計	① 15,345	15,412	△67	△0.4%
費 用	維持管理費	4,382	4,397	△15	△0.3%
	減価償却費等	8,526	8,428	98	1.1%
	支払利息等	1,377	1,576	△199	△12.6%
	その他	51	48	3	5.9%
	計	② 14,336	14,449	△113	△0.8%
	差引（当期純利益）	③ 1,009	963	46	4.6%
	繰越利益剰余金	4,761	4,034	727	15.3%

令和2年度の総収益は、他会計負担金の減少などにより、約153億円(①)となりました。総費用は、借入金の支払利息の減少などにより約143億円(②)となりました。よって、当期純利益は約10億円(③)となりました。

○貸借対照表

貸借対照表は、決算年度末（3月31日時点）の財政状態を「資産」「負債」「資本」で表すものです。これらには、「資産＝負債＋資本」という関係性があります。

（単位：百万円 税抜）

	内 容	令和2年度	令和元年度	増減額	増減率
資 産	固定資産	243,550	245,162	△1,612	△6.6%
	現金預金	4,059	4,109	△50	△1.2%
	未収金	2,323	2,427	△104	△4.3%
	前払金等	610	346	264	43.3%
	計	① 250,542	252,044	△1,502	△0.6%
負 債	企業債	78,868	81,404	△2,536	△3.1%
	リース債務	16	25	△9	△36.0%
	未払金	2,709	3,409	△700	△20.5%
	引当金	57	55	2	3.5%
	前受金等	18	10	8	44.4%
	繰延収益	63,618	63,319	299	0.5%
	計	② 145,286	148,222	△2,936	△2.0%
資 本	資本金	99,106	98,713	393	0.4%
	剰余金	6,150	5,109	1,041	16.9%
	計	105,256	103,822	1,434	1.4%
負債・資本合計		250,542	252,044	△1,502	△0.6%

令和2年度の資産総額は、固定資産の減価償却が進んだことなどにより、約2,505億円(①)となりました。

負債総額は、企業債の残高が減少したことにより、約1,452億円(②)となりました。

○経営指標

経営指標は、企業の「収益性」や「健全性」を数値で表すものです。

経常収支比率及び経費回収率は、収益で費用をどの程度賄えているかを表す指標で、100%を超えていれば1年の収支が黒字であることを示しています。

流動比率及び自己資本構成比率は、企業の支払い能力や体力を表す指標で、高いほど健全であることを示しています。

いずれも、企業債の返済が進んだことなどにより令和元年度より上昇しました。

相模原市の下水道事業は、自前の下水処理場を持たずに神奈川県が実施する相模川流域下水道事業に参加しています。これにより、下水道使用料は、20m³当たり2,036円/月（税込）と全国平均（2,842円/月）より低い額となっているにもかかわらず、健全な経営状態となっています。

項目	令和2年度	令和元年度	政令市平均	望ましい方向	説明
経常収支比率(%)	106.8	106.5	108.2	↑	収益で費用をどの程度賄えているか
経費回収率(%)	106.9	105.5	110.9	↑	汚水処理に要する費用を下水道使用料でどの程度賄えているか
流動比率(%)	71.5	64.9	72.9	↑	1年以内に現金化できる資産と負債の比率（短期的な支払い能力）
自己資本構成比率(%)	67.4	66.3	62.5	↑	総資本（負債+資本）に対する自己資本の割合
有形固定資産減価償却率(%)	22.3	19.8	48.3	↓	法定耐用年数に近い固定資産の割合
下水道使用料収納率(%)	99.55	99.52	99.57	↑	調定額に対する収入済額の割合
汚水処理原価(円)	108.1	111.9	119.3	↓	有収水量1m ³ 当たりの汚水処理に要した費用

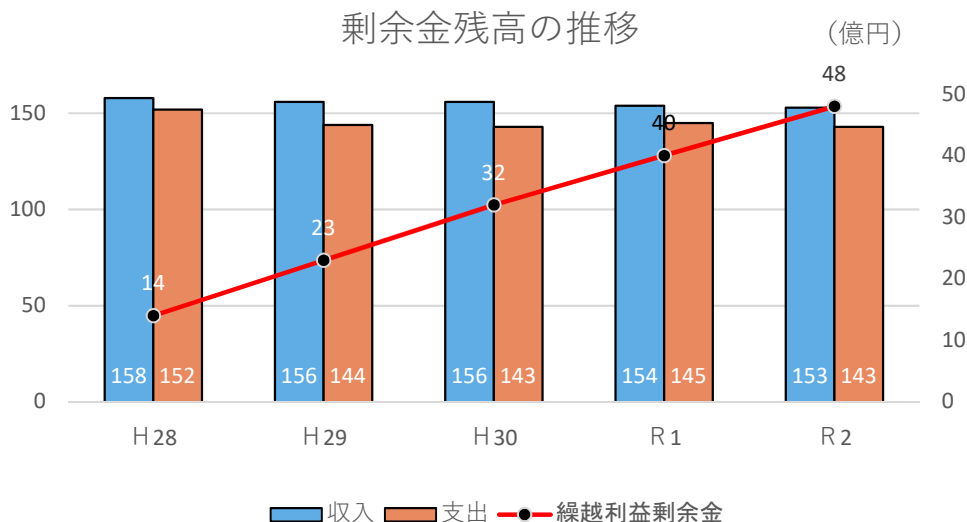


5

その他

○「剰余金」ってなに？

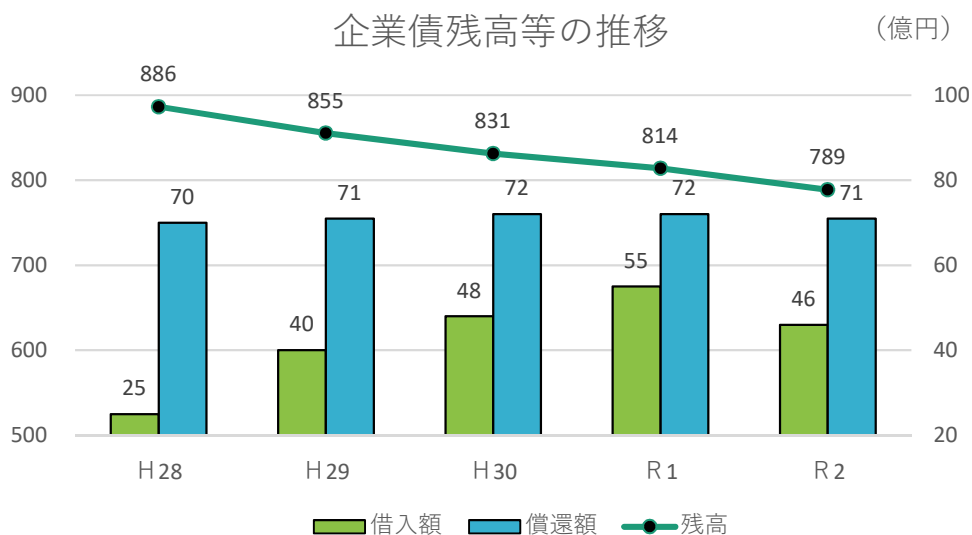
経営の結果、生じた利益は、将来の大きな支払いへの備えのほか、急にお金が必要になったり、収入が落ち込んだときに対応できるよう「剰余金」として積み立てをしています。急な収支に対応するための「利益積立金」や、企業債を返済するための「減債積立金」などとして下水道事業に活用していきます。



○なぜ借金するの？

下水道施設の整備には大きな費用が掛かるため、1年間の予算で支払ってしまうと他の業務が出来なくなってしまいます。

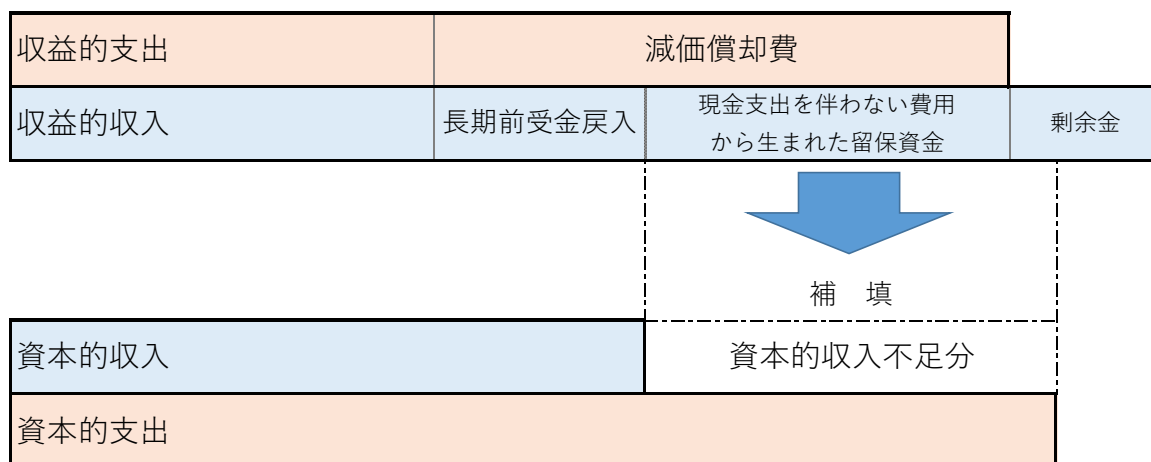
また、下水道のような、長い期間、多くの方が使用する施設の建設費用は、将来の利用者の方にも平等に負担していただくために企業債を借り入れています。



○資金の補填の仕組みは？

公営企業会計では、下水道施設の維持管理などに使うお金を「収益的収支」、下水道施設の建設などに使うお金を「資本的収支」と区別しています。資本的収入の不足分については、収益的収支の「剰余金」や「減価償却費」などから生まれる留保資金によって補填する仕組みとなっています。

資金の補填イメージ



○「長期前受金戻入」「減価償却費」ってなに？

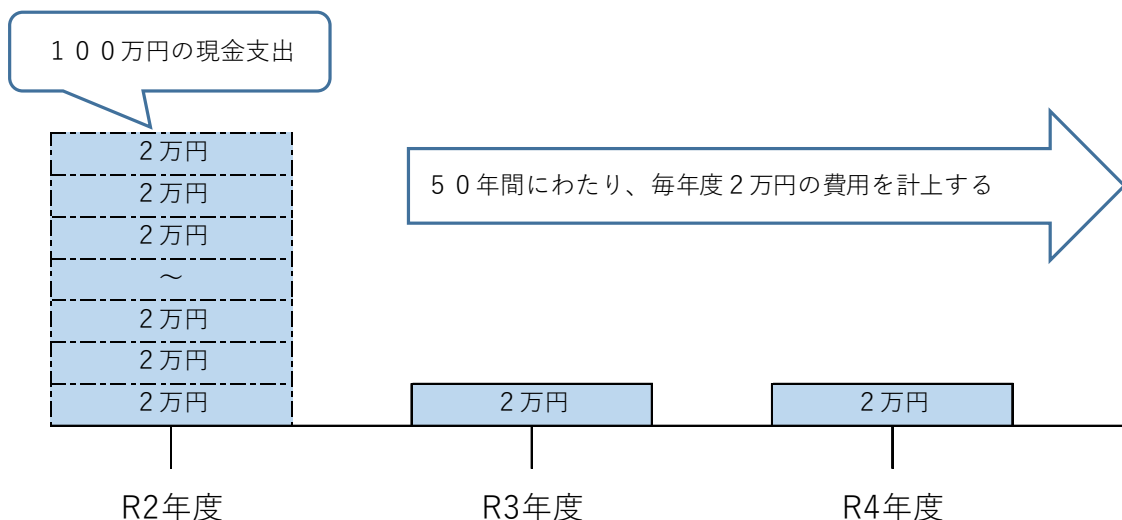
下水道施設の建設に関する収支を現金の発生に合わせて計上してしまうと、建設の多い年と少ない年で収支の差が大きくなり、不安定な経営となってしまいます。

「長期前受金戻入」と「減価償却費」は、建設時に発生した「補助金等の収入」や「工事費等の支出」を平準化するために、下水道施設の耐用年数に応じて配分して計上するものです。

実際の現金は建設時に発生していることから「現金の収入を伴わない収益」や「現金の支出を伴わない費用」と言われています。

減価償却の考え方

(例) 令和2年度に100万円の下水道施設（耐用年数50年）を建設した場合



※長期前受金戻入の場合は、建設時の現金収入を50年間にわたり収益として計上します。

令和2年度に実施した主な事業

雨水浸水対策事業 14億3,900万円

「相模原市緊急雨水対策事業実施計画」に基づき、相南・南台・上鶴間地区の浸水被害を解消するために進めている境川第28バイパス整備や津久井地域の雨水幹線整備のほか、麻溝台地区の雨水管工事を実施しました。

【計画期間】
平成27年度～令和6年度
【進捗状況】
15箇所中7箇所整備済み

耐震化事業 24億3,300万円

「相模原市下水道施設地震対策事業計画」に基づき、姥川雨水幹線や緑が丘雨水幹線の耐震化工事を実施しました。

【計画期間】
平成26年度～令和9年度
【進捗状況】
対策が必要な管きょ約18kmのうち約12%（約2.2km）を完了。
（R2～3年度継続事業）

長寿命化事業 1億6,400万円

「相模原市下水道施設維持管理計画」に基づき、星が丘・小山地区の下水道更新工事、上溝・下九沢地区のマンホールポンプ制御盤更新工事、久所ポンプ場や中淵ポンプ場の設備更新工事を実施しました。

【令和2年度主な実施箇所数】
下水道更新工事：3箇所
マンホールポンプ制御盤更新工事：11箇所
マンホールポンプ設備更新工事：6箇所

生活排水処理対策事業 16億6,600万円

水源の汚濁防止や下水道未普及地域の生活環境の保全のため、当麻地区や津久井地区の下水道整備や汚水ます及び高度処理型浄化槽の設置工事を実施しました。

【津久井地区の下水道整備】
計画目標年度：令和9年度
整備済み面積：405ha 進捗率：79.1%
【高度処理型浄化槽設置工事】
計画目標年度：令和15年度
設置済基数：1,275基 進捗率：28.5%

合流改善事業 3億9,700万円

公共用水域の水質を守るため、相模原地区の下水道を雨水と汚水に分流化する工事を実施しました。

【計画期間】
平成17年度～令和12年度
【進捗状況】
65%
（393ha中256ha整備済み）

維持管理事業 44億3,300万円

市内の下水道施設の維持管理のほか、神奈川県が実施する相模川流域下水道の処理施設に掛かる維持管理費用を負担金として支払いました。

【内訳】
・維持管理費用 17億9,900万円
・流域下水道維持管理負担金 26億3,400万円



相模原市都市建設局下水道部下水道経営課
〒252-5277
相模原市中央区中央2丁目11番15号
電話042-707-1840